令和７年度

教職課程
自己点検評価報告書

令和８年８月

長崎短期大学

目次

I　教職課程の現況及び特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

II　基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域１ 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み・・２

基準領域２ 学生の確保・育成・キャリア支援・・・・・・・・・・・・・・・・４

基準領域３ 適切な教職課程カリキュラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・７

III 総合評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス・・・・・・・・・・・・・・・１１

V　現況基礎データ一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

Ⅰ　教職課程の現況及び特色

１ 現況

（１）大学名：学校法人九州文化学園　長崎短期大学

（２）所在地：長崎県佐世保市椎木町 600 番

（３）学生数及び教員数

①令和７年５月１日現在

【保育学科】

学生数：　教職課程履修者数　１３０名

教員数：　教職課程専任教員数　　９名

【専攻科保育専攻】

学生数：　教職課程履修者数　　１２名

教員数：　教職課程専任教員数　　４名

２ 特色

長崎短期大学の母体である学校法人九州文化学園は、昭和 20 年 12 月、戦後の混乱が続く佐世保の地に各種学校として誕生した。創立者安部芳雄（当時 33 歳）の建学の志は、教育の力による疲弊した世相の立て直しであった。建学の精神「高い知性と豊かな教養、優れた徳性と品格、たくましい意志と健康な身体」に基づき地域社会に貢献する人材の養成のために、専門分野における即戦力を養う教育に力を入れ、各種の免許や資格取得を目指した専門教育・職業教育を実施している。

保育学科は、保育に必要な知識や技能の習得を通して心豊かな人間力を養い、地域の保育の発展と向上に貢献できる人材の養成を目的とし、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の国家資格を取得するために定められた専門教育科目と、豊かな人間力、コミュニケーション能力、主体的に学ぶ力等の汎用的能力を育てる基礎教育科目を配した教育課程を展開している。また、地元の茶道流派「平戸鎮信流」を学ぶ科目「茶道文化」を全学必修として開講し、地域文化への理解と社会人に必要な常識やマナーの習得を目指している。

専攻科保育専攻は、短期大学における一般的および専門的教養の基盤の上に立ち、さらに、保育の専攻分野について深い学識と研究能力を培うことを目的とし、幼稚園教諭一種免許状と独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が付与する学位（教育学）の取得を目指している。保育者養成校で２年間学び、さらに保育・幼児教育の専門性の向上を希望する者のために、保育の多様なニーズに応えることができるカリキュラムを編成している。

II　基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域１ 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目１－１ 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

長崎短期大学保育学科は、建学の精神及び教育に関する基本方針にもとづき、５つの卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）（Ⅰ．人間性と品格を備えた社会人として行動できる。Ⅱ．保育に関する専門的知識・技能を習得し、体系的な理解ができる。Ⅲ．保育の対象を理解し、保育に関わる様々な人々と協力する力を身につけている。Ⅳ．保育に関する専門的知識・技能を応用し、様々な課題を解決する保育実践力を身につけている。Ⅴ． 自己課題を探求し、地域の保育の発展と向上のために学び続ける力を身につけている。）を定めている。

また、専攻科保育専攻もこれらを踏まえて、４つの修了認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）（Ⅰ．豊かで幅広い教養を身に付けている・保育に関する専門的知識・技術を修得し、子どもを取り巻く環境を社会認識によってとらえ正しく理解している。Ⅱ．保育の様々な場面で問題を多角的かつ根源的に理解・分析し、解決していく力を身につけている。Ⅲ．地域の発展・向上に寄与する使命感を持ち、協働の意識とマナーを身につけ、保育の現場を支えることができる。Ⅳ．体系的な学習と現場での経験を総合的保育力として総合し、保育の様々な課題を探求し続ける思考を持っている。）を定めている。

すべての授業科目に到達目標を設定し、この目標を達成するために構成した授業計画（シラバス）に沿って、授業を展開している。各授業科目は、教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）の下に配列し、実施している。教育課程の構造を理解しやすくするために、カリキュラム・マトリックスを作成し、卒業認定・学位授与の方針の到達目標である学修成果の可視化を図っている。

〔長所・特色〕

保育学科および専攻科保育専攻の卒業認定・学位授与の方針は、「学科等の目的」「身につける５つの資質・能力（専攻科は４つ）」「資質・能力別の人材育成の到達目標」「到達目標」の具体を示したベンチマーク(中項目)を設定し、４段階のルーブリックを示している。各セメスターで学修成果を振り返るようルーブリック評価（学生の自己評価）を実施している。

〔取り組み上の課題〕

学修成果を測る指標の１つである汎用的能力要素※1は、他学科と共通の内容となり、その各能力要素については、各科目の到達目標との相関により妥当性が認められている。しかしながら、学科および専攻科独自の専門的能力要素※2については、学科専門科目の到達目標との関連性について未検討のままである。そのため、今後は統計的手法を用いて各年度、セメスター毎の学生による自己評価と各科目の教員評価（成績評価）との関連性について分析し、専門的能力要素の妥当性について検討していくことが課題である。

※1　ディプロマポリシーⅠ

※2　ディプロマポリシーⅡ～Ⅴ（専攻科はⅡ～Ⅳ）

＜根拠となる資料・データ等＞

・資料１：長崎短期大学　令和７年度自己点検評価書

・資料２：長崎短期大学　学生便覧２０２５（Ｒ７）年度

基準項目１－２ 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

長崎短期大学保育学科および専攻科保育専攻は、教職課程認定基準を踏まえ、科目を担当するにあたり十分な教育研究業績を有する研究者教員と実務家教員をバランスよく配置している。

また、事務局学生支援課では、教育課程および教職課程を統括的に管理するため、学科教員と協働しながら教職課程を適切に運営していく体制を整えている。

教職課程を実施する教室は、講義室、実習室（保育実習室、ピアノ実習室）、リズム室、絵画工作室、調理実習室、体育館、コンピュータ演習室等であり、用途に応じてプロジェクター・スクリーン・電子黒板・大型ディスプレイ等を配備し活用している。図書館は、令和５年度時点で蔵書数 41,754 点、視聴覚資料 762 点（教職課程に関連する書籍資料等）、かつ外部データベースや全国図書館の複写及び現物貸供可能な国立情報学研究所 NACSIS-CAT/ILL 等のネットワークに加盟し、教職課程における教科・教職科目の学修に十分な資料を用意している。電子書籍やビデオ等各種サービスも導入し、全学生がデジタル教材の利用も可能である。その ICT 教育環境については、閲覧室に Wi-Fi 設備及び機器用電源の設置、イベント使用できる小上がりを設ける等、フロアレイアウトに可変性を持たせることにより、授業での利用およびラーニングコモンズとしての機能も有している。また、キャンパス内には無線 LAN や印刷機器を配備して授業における情報通信技術の活用基盤を整備している。

〔長所・特色〕

保育学科および専攻科保育専攻は、実践的な教育を実現するため実務家教員を採用し配置している。教職課程の質向上のために、GPA 分布、単位取得状況、免許資格取得状況、就職状況、学生個々のポートフォリオ（履修状況や学修成果の獲得状況）等をもとに学科会議、教務委員会、自己点検・評価委員会、教授会において定期的な点検、評価、報告を実施している。

教職課程は、保育学科および専攻科保育専攻で管理運営しており、教育内容や方法の組織的運営を統括している。また教学マネジメントにおいて大きな役割を担う大学改革ＩＲ委員会が授業アンケート結果等を通して第三者的視点により教職課程の点検・評価を行っている。

〔取り組み上の課題〕

教職課程について、本学の組織上特に目立つ課題はないが、その成果については、点検・報告で留まっている傾向がある。また、昨今の学生の学修状況（成績評価の格差、授業外学修時間の低下）や学修成果の２極化（過小評価や過大評価の拡大）から、定期的な点検と評価に留まらず、DP・CP に基づく目指す教員像へつなげる学修環境（ヒトとモノ）の充実を図ることが必要である。さらに、「令和の日本型学校教育」の「幼児教育を担う人材の確保・資質及び専門性の向上」に示された内容を踏まえた上で、学科の目指す教員像をより具現化していくことが課題である。

＜根拠となる資料・データ等＞

・資料１：長崎短期大学　令和７年度自己点検評価書
・資料２：長崎短期大学　学生便覧２０２５（Ｒ７）年度

基準領域２ 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目２－１ 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

長崎短期大学保育学科および専攻科保育専攻では、建学の精神に基づいた入学者受け入れの方針（AP）を掲げ、将来、幼稚園や保育所、認定こども園等で働きたい人材を募集している。そのため、ホームページ（HP）や大学案内、学生募集要項等だけでなく、高等学校教諭対象学校説明会や進路ガイダンス、オープンキャンパス等を通じて、本学科が志願者に求める資質能力について公開している。

その他、大学のHPにおいて、教員養成の目標や教育計画、組織体制など、教職課程に関する情報の公開や教員養成の取り組みに関する記事などを掲載し、教員養成への熱意を伝えている。卒業認定・学位授与の方針（DP）では、保育に必要な知識や技能の習得を通じて、心豊かな人間力を養い、地域の保育の発展と向上に貢献できる人材を育成することを目的とし、それを踏まえた教育課程編成・実施の方針（CP）では、５つの方針（専攻科は４つ）に加え、教育課程の構造を理解しやすくするためのカリキュラム・マトリックスおよびカリキュラムフローチャートを作成している。学修成果の習得状況については、学生個人レベルでは、授業科目の評価をはじめとして学外実習の自己評価と他者評価や「保育実践演習（教職実践演習）（幼稚園）」の振り返りシート、履修カルテ等の自己評価を用い、学位プログラムのレベルでは、学外実習や卒業研究発表会等の外部評価を用い、多面的で総合的な評価を行っている。

〔長所・特色〕

保育学科では、入学予定者対象の入学前教育において、提出型の課題を設けて、入学後にも、教職に必要な知識を問うフォローアップを実施している。特に令和３年度からは、絵本研究の一環で「子どもたちに読みたい絵本」といった専門的課題も課しており、保育者としての意識の涵養を図っている。音楽教員によるピアノ課題は、早期からの保育・教職への関心を高める機会を担うと共に、ピアノ初学者の入学後のスムーズな学びへとつなげている。

入試選抜では様々な方法を設定しており、特に総合型選抜試験においては、個人面接だけでなく絵本の読み聞かせ等の実技試験の場を設けている。評価の一環ではあるが、受験者にとっても、教職に必要な表現技術について認識し、入学後の目標を確認できる場となっている。

その他の特色としては、クラスアドバイザー制度を設けており、より多角的で個々に応じた支援を提供することが可能となっている。初年次教育およびキャリア教育の科目内において、自分を見つめ、現場の声を実際に聞きながら自分の適性を知り、教職への関心をより高める機会や内容を用意している。

〔取り組み上の課題〕

ここ数年、免許や資格の取得を断念する学生が見受けられるようになってきた。様々な理由が考えられるが、入学後の学修意欲の低下を防ぐため、保育の魅力ややりがいなどを日頃から学生に伝え、学修意欲の維持、向上を図る必要がある。

＜根拠となる資料・データ等＞

・資料１：長崎短期大学　令和７年度自己点検評価書
・資料２：長崎短期大学　学生便覧２０２５（Ｒ７）年度

基準項目２－２ 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

長崎短期大学保育学科では、基礎教育において日常生活での基本的な礼儀作法やホスピタリティの精神を養い、書く力や英語コミュニケーション能力の習得等の職業的基本スキルを身につけさせている。専門教育においては、「保育実習指導・保育実践演習（教職実践演習）（幼稚園）」などの科目の中で保育者としての専門知識・技術を身につけさせ、職業意識を高めさせている。個々の学生のニーズや適性に応じた支援を行うため、実習担当教員、クラスアドバイザー、学生支援課職員とも連携を図りながら、情報共有しながら対応している。場合によっては、保護者にも協力を仰ぎ、教員免許状や保育士資格の取得に向けてサポートをしている。

専攻科保育専攻の学生は、就職先・進学先の情報収集を自身のネットワークで行っていくケースが多く、有給インターンシップ先にそのまま就職することもある。

そのため、事務局学生支援課では相談があれば求人情報の紹介、履歴書の添削、面接練習等の支援を行うと共に、公務員試験や就職志望先に係る資料を常に自由に閲覧できるスペースを隣接させ、キャリアコンサルティングを行っている。そして常に最新の進路状況を掌握すると共に、学科・専攻科との連携を図りながら求人や就職関係情報の整理と公開、事務局窓口での相談や提出書類の添削など、大学全体のキャリア支援、進路指導を統括している。

また、卒業生・修了生を受け入れる企業や事業所からの評価・意見の聴取、免許の取得率、就職率等、多元的な測定・評価方法を用いて職業教育の効果を検証し、教育課程・教育方法の向上充実・改善に努めている。

〔長所・特色〕

保育学科では、基本的に全学生が幼稚園教諭二種免許状および保育士資格を取得すること、専攻科保育専攻では、幼稚園教諭一種免許状および学士（教育学）を取得することを前提としてキャリア支援の充実に努めている。

教職員による組織的な支援に加えて、学生同士（１年生と２年生）による交流や学び合いを活用している点が特色としてあげられる。例えば、実習を前にした指導案や日誌の書き方に関する情報交換、就職を前にした模擬面接によるシミュレーション等、２年生が個々の体験をもとに具体的なアドバイスを行うことで １年生、２年生双方のキャリアップが図られている。専攻科では、ほぼすべての授業の中でインターンにおける保育事例を教材として用いている。

また、公務員就職希望の学生のために、公務員試験対策講座を開催している。無料で受講できることもあり、学生からは好評を得ている。

〔取り組み上の課題〕

これまでの学内におけるキャリア支援にとどまらず、実習や授業、就職などの局面で保育現場、行政と協力・連携することが課題である。養成校の卒業生に関する令和元年度の調査研究では、卒業して一般職に就いた学生の約４割は、その理由として、「実習で保育をすることに自信を持てなかったから」と回答している。キャリア支援の観点から、保育の難しさや保育者として困難なことに対峙したときに、どのように乗り越えていくのかなど、保育現場と連携をしながら、学生のキャリア形成をサポートしていくことが必要である。

＜根拠となる資料・データ等＞

・資料１：長崎短期大学　令和７年度自己点検・評価書
・資料２：長崎短期大学　学生便覧２０２５（Ｒ７）年度

基準領域３ 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 ３－１ 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

保育学科は、保育者（幼稚園教諭および保育士）の養成を主たる目的とし、専攻科保育専攻は、幼児教育の専門性の向上を目的としている。その教育課程は、学修到達目標に沿って実施し、学修成果を測定している。学修成果は、建学の精神および教育目標の具体的な到達目標として学科の学修到達目標を定め、建学の精神を具現化するものとなっている。

教職課程カリキュラムは、コアカリキュラムを踏まえて編成している。また、施行規則より多く単位が履修できる編成となっている。具体的には、領域及び保育内容の指導法に関する科目は施行規則では 12 単位であるが、30 単位を設定している。教育の基礎的理解に関する科目等は、施行規則では６単位となっているが 14 単位を設定している。

教職課程のカリキュラムの編成・実施にあたっては、理論中心の授業科目と、現場での体験や実習における実践的な科目を相互に往き来し、学びを深めていく「理論と実践の往還」を重視した科目配置をしている。履修者に対して、学修の段階や順序等をわかりやすく示すことを目的に履修系統図及び科目ナンバリングを作成し、ホームページにおいて公開、履修ガイダンス等の機会に周知している。また、教職課程を履修している学生は定期的に、教員育成指標を踏まえて作成された学修成果の評価指標（ルーブリック評価）を用いて、これまでの学びや実践を省察し、自身の教師としての総合的な資質能力が高められるようにしている。

今日の学校に求められる ICT 機器を活用し、情報活用能力を育てる教育に対応するため、数理・データサイエンス・AI に関する基礎的素養を身につける「データサイエンス基礎（基礎教育科目）」を必修として開講し、「コンピュータ演習」「保育の ICT」「実践コンピュータ」といった科目も開講している。

また、アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）やグループワーク等については、特に保育内容演習等において、保育の実践現場に即した模擬授業やグループワーク等を展開するようにしている。各教員は、実践現場のなかでのケーススタディを通して、学生主体の授業となるように留意している。

教育実習を行う上で必要な履修要件は、「幼稚園教育実習に行くための要件」において明記されている。「幼稚園教育実習Ⅰ」を履修する資格として、「実習指導」への参加、提出物の厳守等が定められている。また、上記要件を満たしていても、生活や学修態度等の適格性が不十分と判断された場合は「幼稚園教育実習Ⅰ」の履修が保留となる場合もある。

「保育実践演習（教職実践演習）（幼稚園）」を中心にして、セメスター毎の成績評価に基づき、教職に必要な資質能力（学修成果）の評価を行い、学生の学修状況を把握に努めている。そのうえで、「保育実践演習（教職実践演習）（幼稚園）」におけるグループ討議やロールプレイ等を通して、教職課程における学修内容の振り返りとフィードバックを行いながら、学生の資質能力を確認している。

〔長所・特色〕

大学および学科の教育上の目的・目標、教職課程コアカリキュラムを踏まえ、履修する学生の資質能力を考慮しながら、「理論と実践の往還」を重視したカリキュラム編成をしている。さらに、データサイエンス・AI や SDGs など学校を取り巻く社会の新たな課題に対応するため、教職課程と連動したプログラムが用意されている。また、学生や就職先に対するアンケートの結果を参考にしながら学生や現場のニーズを考慮した教職課程カリキュラムの編成・実施を行っている。

〔取り組み上の課題〕

総まとめ科目として「保育実践演習（教職実践演習）（幼稚園）」を位置づけ、２年次後期に自ら

の学びを振り返り、幼稚園教諭として必要な知識・技能を修得したことを確認させている。オムニバス形式で各担当教員が振り返りのポイントを説明し、それに関して学生が実習でのエピソードを中心にレポートにまとめ自らの学びを確認しているが、実習での学びや気づき、それに対する考察など深まりが見られないが学生も存在している。実習の事後指導とも関連させながら、学生自身が自己の成長を実感し、これまでの学びの振り返りを通じて課題が明確化できるよう指導して行く必要がある。
＜根拠となる資料・データ等＞
・資料１：長崎短期大学　令和７年度自己点検・評価書
・資料２：長崎短期大学　学生便覧２０２５（Ｒ７）年度
・資料３：幼稚園教育実習Ⅰに行くための要件について

基準項目　３－２　実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕
教育実習は、短大と現場が連携して実践的教育を行うための貴重な機会である。そのため、保育学科では、マナーや心構えを含めて基礎から応用へ段階的な実習内容となるよう、系列幼稚園や県内の協力園と連携して、実習を運営している。
１年次 11 月に 10 日間、２年次９月に 10 日間の計 20 日間を教育実習（４単位）として実施し、学生の実践的指導力の育成にあたっている。
実習期間中は学科教員が実習園へ巡回を行い、学生に指導助言を与えるだけでなく、実習事後指導の資料として活用するため、「巡回指導報告書」を学生一人ひとりに対し記入している。また、特に指導が必要な学生に対しては実習担当教員が、実習園の指導担当者と連携を取りながらフォローアップを進めている。
また、様々な体験活動を通して、地域の子どもや教育・保育について学生が理解する機会を設けている。系列幼稚園・保育園でのボランティア活動やゼミでの地域活動、フィールドワーク、現職保育者による講義や演習などを通して、地域の子どもの実態や学校園における実践について理解を深めている。

〔長所・特色〕
保育学科（開設時は幼児教育学科）は、保育者養成において、長年の歴史と実績を誇っている。教育実習や体験活動など学生の実践的指導力の育成に協力的な園が多く、各種の取り組みをスムーズに進めることが出来ている。保育学科の教育内容や学修成果に関する情報について、就職先の園長にインタビュー調査を行い、その結果に応じて実践的な養成教育への見直しを行っている。

〔取り組み上の課題〕
入学当初より系列幼稚園等でのボランティア活動に参加しており、毎年事前の打ち合わせを主幹教諭と実習担当教員等で実施している。互いの指導内容について大部分は共通理解ができているものの、一部分では両者の間にずれが生じている点が課題である。相互理解をさらに深めるため、系列幼稚園と継続的に協議を重ねる場を設けているが、特に、学生の資質や経験に個人差があるため、主幹教諭はもちろんであるが、クラス担任など直接学生指導を担当する教諭にも同席いただき、ボランティア活動等における実践的教育の在り方について共通理解を図っていく必要がある。

＜根拠となる資料・データ等＞
・資料１：長崎短期大学　学生便覧２０２５（Ｒ７）年度

Ⅲ．総合評価

基準領域１「教職課程教育に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」においては、卒業認定・学位授与の方針（DP）を踏まえて、教職課程を通して育む資質能力を示した学修成果を設定し、その可視化を図っている。具体的に提示された学修成果は、教職志望学生および関係教職員にとって目指すべき具体的な教師像として共有されている。教職課程の実施においては、保育学科および専攻科保育専攻を中心に、教務委員会、大学改革・IR 委員会が緊密に連携することで人材養成の質を保持する体制を整え教育改善に努めている。

基準領域２「学生の確保・育成・キャリア支援」においては、入学者受け入れの方針（AP）に基づく多様な選抜方法を実施し、教職への意欲が高い学生を受け入れる工夫をしている。学生の育成に関しては、「幼稚園教育実習Ⅰに行くための要件について」を設定し、一定の学力の確保に努めている。キャリア支援においては、入学前教育、初年次教育およびキャリア教育科目、教職科目を通して、学生の学修意欲の維持・向上を図りつつ、キャリア意識の醸成に努めている。その一方で、数名ではあるが、教員免許の取得を断念する学生や幼児教育分野以外への就職を希望する学生がいることが課題の１つである。これまで以上に関係教職員が連携し、学生のニーズに応じた情報提供や組織的な支援を行う必要がある。

基準領域３「適切な教職課程カリキュラム」においては、理論と実践の往還を重視した系統的なカリキュラムが編成されている。また、Society5.0 時代の到来に対応すべく、数理・データサイエンス・AI の素養や ICT 機器の活用能力の向上に対応した科目を開講し、教育現場の DX 化において有用な人材を輩出できるよう、教職課程を含むカリキュラム全体を通して対応している。『履修カルテ』と本学独自の「学修成果の評価」の連結が課題であり、学生の履修状況に応じたより細やかな教職指導の実現に向けて継続検討していく必要がある。実践的指導力の育成においては、教育実習指導をはじめとする教職科目において、段階的で丁寧な指導を行っている。教育実習に加えて、地域貢献活動やフィールドワーク、ボランティア等において地域の人々や保育現場と連携する機会を豊富に用意し、実践的指導力育成を促進することが今後の課題である。

Ⅳ　「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

本報告書は、保育学科・専攻科保育専攻・事務局学生支援課が中心となり、連携・協働しながら作成にあたった。作成の大まかなプロセスは以下のとおりである。

令和８年４月
事務局学生支援課で令和７年度の教職課程自己点検評価報告書作成に着手

令和８年５月
保育学科・専攻科保育専攻と調整を行い、報告書案を作成

令和８年８月
ホームページに公開

Ⅴ　現況基礎データ一覧

令和８年５月１日現在

法人名 学校法人 九州文化学園					
大学名 長崎短期大学					
学科・コース名 保育学科					
１　卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
①昨年度卒業者数					７０
②①のうち、就職者数 （企業、公務員等を含む）					６０
③①のうち、教員免許状取得者の実数 （複数免許状取得者も １と数える）					６４
④②のうち、教職に就いた者の数（幼稚園教諭＋保育教諭） （正規採用＋臨時的任用の合計数）					１４
④のうち、正規採用者数					１４
④のうち、臨時的任用者数					０
２ 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他（　　）
教員数	３	２	２	２	９
相談員・支援員など専門職員数　　０					

令和７年５月１日現在

法人名 学校法人 九州文化学園					
大学名 長崎短期大学					
学科・コース名 専攻科保育専攻					
１　卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
①昨年度修了者数					7
②①のうち、就職者数 （企業、公務員等を含む）					6
③①のうち、教員免許状取得者の実数 （複数免許状取得者も１と数える）					6
④②のうち、教職に就いた者の数（幼稚園教諭＋保育教諭） （正規採用＋臨時的任用の合計数）					3
④のうち、正規採用者数					3
④のうち、臨時的任用者数					0
２ 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他（　　）
教員数	4	0	0	0	4
相談員・支援員など専門職員数　0					